

福祉関連絵本データベース化の試み

佐野 智子 ・ 広瀬 美和 ・ 所 貞之
尾関 立子 ・ 大内 善広 ・ トゥンマン武井典子

1 はじめに

本研究の目的は、本学学生、教職員及び地域の人々にとって、必要かつ利用しやすい、福祉関連絵本のデータベース化を試みることである。現在、本学所蔵の絵本を OPAC で検索する際は、書名、書名の一部、著者名によって検索することは可能である。しかし、それ以外の情報、例えばテーマや内容、書名に含まれていないキーワードで検索をすることは困難である。すなわち、現状のシステムでは、書名や著者名に関してある程度正確な情報がなければ、絵本を検索することはできない。

保育者を目指す学生たちは、多くの絵本に触れ、絵本に関する十分な知識と情報を得ることが必要である。読みたい絵本や探したい絵本を容易に検索できるデータベースは、学生たちが多くの絵本に触れるきっかけとなり、学生たちが十分な絵本に関する知識を得ることに寄与すると考えられる。森木（2015）によれば、保育実習へ行く学生たちの多くは、対象年齢、季節、テーマなどで検索したいという希望をもっている。また、子どもの発達や文化、福祉を研究する研究者にとっても、絵本の特徴やテーマによって分類されているデータベースは、研究に役立つだろう。したがって、本学学生や教員が利用しやすいデータベースを作成することは意義がある。

このようなデータベースを作成する際に、どのような情報をどこまで細分化するかということが課題となる。Lima（1986）は、幼児から小学2年生程度までの絵本約12,000冊を、大主題4、副主題123、主題700に分類している。しかし、あまりに細分化し過ぎても、労多くして功少ないことになりかねない（佐々木ら、1991）。佐々木ら（1991）は、Lima（1986）の分類を参考にしつつ、数年にわたる試行錯誤の中で、すべての分類をあきらめ、「発達」という視点からデータベースを作成している。その分類は、大主題6、その下位分類として合計280の主題に分類し、約2,100冊の入力が完成している（1999年9月現在）。この絵本データベースは、インターネットで利用が可能である。

このように児童書全般や「発達」を対象としたデータベースは存在するが、「福祉」の視点からの絵本データベースは存在しない。出版社やNPO、研究会などによるバリアフリー絵本の紹介ページ（例えば、「バリアフリー絵本の会」や「バリアフリー絵本研究会」など）では、

多少の検索は可能であるが、網羅的な検索はできない。それぞれの団体が独自の紹介リストを作成しているに留まっている。福祉の対象には、子ども、障がい児（者）、移民や先住民など非主流に属する人々などのマイノリティが含まれる。対象が多様であるだけに、バリアフリー絵本の種類も多様である。点字、音、文字の大きさなどへの工夫の有無や、どのような障がいやマイノリティに関しての内容なのかといった情報を含めたデータベースが必要である。

徳田（1990、1991、1992）は一連の研究の中で、マイノリティに対する好意的な態度と適切な認識の形成には、幼児期からの取り組みが不可欠であることを明らかにしている。子どもたちが最初に出会う出版物である絵本は、マイノリティを包含する多様性に寛容な社会への参加を準備するための教材として最適である。また、この試みは本学福祉総合学部の教育目標に合致する。福祉関連絵本のデータベース化という本研究の試みは、新規性があり、実現すれば研究、学生への教育、地域の住民の教育に資するものになる。

本研究は福祉関連絵本のデータベース化の試みとして、以下の2研究を行った。研究1では、文献研究を行い、福祉関連絵本を定義し、データベース化に必要な書籍情報を検討した。研究2では、アンケート調査を実施し、学生の図書検索の現状を把握し、データベース化に必要な基本情報を検討した。

2 【研究1】福祉関連絵本とデータベース化に必要な書籍情報

1953年に国際児童図書評議会（International Board on Books for Young People: IBBY）がスイスのチューリッヒで設立された。IBBYは、①子どもの本をとおして国際理解を進めること、②世界中の子どもたちが質の高い本にめぐりあえるようにすること、③特に発展途上国において、優れた子どもの本や出版や普及を奨励すること、④子どもと子どもの本にかかわる人々を支援し、その能力を高める機会を提供すること、⑤児童文学関連の学術研究、調査活動を行うこと、⑥子どもの権利条約に基づき、子どもの権利を守ることをミッションとしているNPOである（IBBYのHPより）。IBBYの理念に共鳴し、日本では1974年に日本国際児童図書評議会（Japanese Board on Books for Young People : JBBY）が設立された。2002年には、このJBBY主催で「バリアフリー絵本展」という展示会が開催された。これ以降、日本国内で「バリアフリー絵本」という言葉が使われるようになった。JBBYはその設立趣旨から、バリアフリー絵本の対象は子どもである。本研究では、対象を子どもにとどめず、高齢者や社会的弱者、マイノリティを含め、人々の幸せ（福祉）に関連する絵本を、「福祉関連絵本」と定義する。

1) 「For の絵本」

バリアフリー絵本は、「For の絵本」と「About の絵本」に大別されている（バリアフリー絵本研究会のHPより）。「For の絵本」とは、障がい者や障がいのある子どもたちのために作

られている絵本で、さわる絵本、点字絵本、拡大写本絵本、布絵本、手話や絵文字がついた絵本、認知特性や見え方の特性に配慮した絵本などがある（石井，2013；バリアフリー絵本研究会の HP）。石井（2013）によれば、さわる絵本はデンマークで作られた。例えば、Newth（1977）の『ちびまるのぼうけん』（Rulle på eventyr）は特殊なインクを使用して、絵の隆起印刷をしている。点字絵本もさわる絵本ではあるが、原本の活字部分に関して点字訳をしている。『てんじつき さわるえほん しろくまちゃんのほっとけーき』（わかやま，2007）や『てんじつきさわるえほん じゃあじゃあびりびり』（まつい，2016）などがある。

拡大写本絵本とは、弱視の子ども用に文字や絵を拡大し、読みやすくしたものである。拡大写本は単純な拡大コピーではなく、文字と絵を見易くするために、絵本全体を再構成する。また、障がい児が読み易いように、配色にも気を配る必要がある。2017年3月に札幌のふきのとう文庫において、バリアフリー絵本の展示会に展示されていたものを図1に示す。これらの絵本は、コピーによる絵の反射を防ぐために、1枚1枚手作業で、色鉛筆を使って彩色されていた。



図1 拡大写本絵本例

原本では1ページに含まれていた絵と文字を、文字と絵をそれぞれ1ページに分けて拡大している。（ふきのとう文庫におけるバリアフリー絵本展にて撮影）

布絵本とは、文字通り布で作った絵本であるが、触って楽しめるようになっている。素材による触感の違いや音の鳴る仕組みを楽しんだり、紐を結ぶ、ホックやボタンの着脱などの練習をしたりできるものが多い。障がいのある子どもにも絵本を楽しんでもらいたいという願いから、1975年に「ふきのとう文庫」で視覚障害をもつ子どものための手作り布絵本の活動が始まった。現在では、視覚障害に限らず、脳や手指に障害をもつ子、非障がい児で愛情不足の子、交通事故や脳梗塞などによって機能障害のある大人のリハビリとしても活用されている（東京布絵本連絡会の活動の HP より）。ボランティアによって一つひとつ手作りされている布絵本は、温かみがあり、障がいをもった子どもたちだけでなく、健常の子どもも、どの世代の人々も楽しむことができる、いわばユニバーサルデザインになっている。

布絵本の会「さくらんぼ」が制作した「みんなでひとつ」(2005)という作品は、ひとつの絵をそれに関連する要素がパズルのように組み合わせられて作られている(図2)。例えば、魚の形を構成するのは、さまざまな海の生き物であり、木はドングリ、きのこ、花などの植物、地球は太陽、海、虹、山、雲などの要素からなっている。この作品は、もともとは障がい児のために作られたものであったが、多文化共生のメッセージも含む、優れたバリアフリー絵本である。

手作り布絵本の特徴として、大きさ、形、構成、綴じ方、内容などが自由で、無限の可能性があるといても過言ではない。手のひらサイズの小さなものから、タペストリーや屏風のような大型のものまで可能である(図3)。素材は布であるため、紙の本に比べ軽いことと形状を変化させられることが特徴である。したがって、収納にも持ち運びにも便利である。

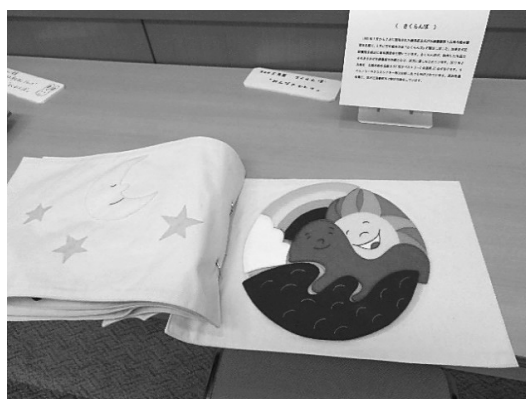
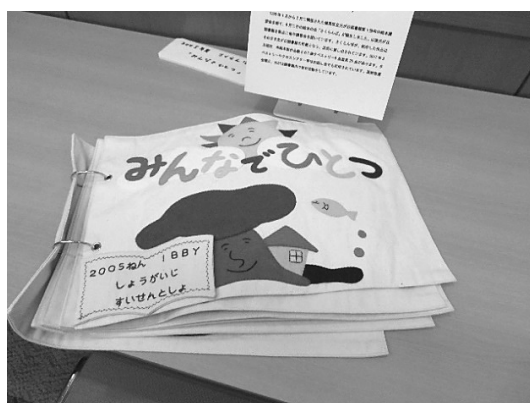


図2 布絵本「みんなでひとつ」(さくらんぼ, 2005)



図3 大型布絵本例(左:おおきなかぶ、右:どうぶつえん)

(ふきのとう文庫におけるバリアフリー絵本展にて撮影)

これまで障がい者のための絵本を中心に述べてきたが、マイノリティの福祉という点からは、日本で暮らす外国の子どもたちのための絵本も「For の絵本」に含まれる。英語の絵本は比較的入手が容易であるが、それ以外の言語は難しい。東京子ども図書館では、在日日系ブラジル人の子どもたちのために、ブラジルのむかしばなしを集めた本を、日本語・ポルトガル語併記（本を右から開くと日本語、左から開くとポルトガル語）で刊行している。データベースにはこのような本の分類も必要となるだろう。

2) 「About の絵本」

「About の絵本」は、マイノリティについて描かれている絵本で、障がいや障がい児者及びその他のマイノリティの理解に役立つ絵本である。障がいのある人たちの歴史は、社会の偏見と闘う歴史でもあり、その中でも障がい者や障がいのある子どもたちを理解するための絵本は多く出版されている（石井, 2013）。例えば、『さっちゃんのまほうのて』（たばた, 1985）は先天性四肢障害、『となりのしげちゃん』（星川, 1999）はダウン症候群の子どもが主人公である。その他にも、『オチツケオチツケこうたオチツケ』（さとう, 2003）は ADHD、『ローラのすてきな耳』（エルフィ, 2011）は聴覚障がいの子どものことについて描かれている。いずれも障がいの特徴や障がいをもった子どもの心情が描かれており、障がい理解に役立つ。学生たちや地域の住民たちがこのような絵本を読むことで、障がい理解を促進すると考えられる。

欧米では家族形態の多様化が進んでおり、性的マイノリティである LGBT に関する子ども向け絵本も多く出版されている。例えば、『タンタンタンゴはパパふたり』（リチャードソン, 2008）、『Daddy, Papa, and Me』、『Mammy, Mama, and Me』（Newman, 2009）は、同性カップルとその子どもについて描いている。『タンタンタンゴはパパふたり』はオスどうしのペンギンのカップルが卵を温め、子育てをする話である。アメリカのセントラルパーク動物園での実話をもとに描かれている。

また、多文化理解では、アイヌ文化やエスキモーなど、日本・世界各地の文化が描かれている絵本も数多く存在する。多文化共生をテーマにした絵本もある。

3) データベース化の素案

バリアフリー絵本の分類に基づいて、さまざまな絵本を取り上げてきたが、単純に「For の絵本」と「About の絵本」と分類することは難しい。「For の絵本」とされているさわる絵本や布絵本は、誰もが楽しめる「ユニバーサルデザインの絵本」である。また「For の絵本」、「About の絵本」の中には、さまざまなマイノリティが含まれている。したがって、これを大分類にすると混乱が生じるため、この分類は中分類が適当である。また、「For の絵本」、「About の絵本」の分類は、絵本に特別な仕様があるかないかの違いによると考えられる。よって、大分類は「絵本の特徴」とし、中分類は「For の絵本」、「About の絵本」と「ユニバーサルデザイン本」とする。「For の絵本」と「ユニバーサルデザイン本」は特別な仕様があるが、「For

の絵本」は特定の障がいにて特化した仕様のある絵本とし、小分類に「点字付き」、「拡大写本」、「手話付き」、「絵文字付き」などを含めた。「ユニバーサルデザイン本」は特別な仕様があるが、特定の障がいにて特化しない、誰でもが楽しめる絵本とする。その小分類は「布絵本」、「さわる絵本」、「音の出る本」、「デジタル絵本」とした。「Aboutの絵本」は特定のマイノリティについて直接理解を深めるような本と一般の絵本であるが、マイノリティ理解に役立つようなメタファーを包含している絵本である。

そこで表1のようなデータベース化にむけた分類案を提案する。福祉関連絵本の大分類として、マイノリティ、絵本の特徴の2つをあげる。マイノリティの中の中分類として、障がい、民族、性的の3つ、その下位分類の小分類として、障がいでは視覚障害、聴覚障害、肢体不自由など、具体的な障がいが含まれる。民族には、アイヌやエスキモーなど、性的には、性別違和と性的指向が含まれる。アメリカ精神医学会の発行しているDSM-5から、「性同一性障害」が「性別違和（Gender Dysphoria）」に変更されているため、ここでもその診断名を用いた。

表1 データベース化に必要な分類の素案

大分類	中分類	小分類
1 マイノリティ	1 障がい	1 視覚障害 2 聴覚障害 3 肢体不自由 4 自閉症スペクトラム 5 AD/HD 6 知的障害 7 うつ病 8 統合失調症 9 慢性疾患 10がん
	2 民族	1 アイヌ 2 エスキモー 3 アボリジニ 4 ロマ 5 ロヒンギャ ...
	3 性的	1 性別違和 2 性的指向
2 絵本の特徴	1 Forの絵本	1 点字付き 2 拡大写本 3 手話つき 4 絵文字付き
	2 ユニバーサルデザイン本	1 布絵本 2 さわる絵本 3 音の出る本 4 デジタル絵本
	3 Aboutの本	1 解説本 2 メタファー

この分類によって、一般の絵本であっても障がい理解やマイノリティ理解につながるメッセージ性の高い絵本を、「絵本の特徴」として分類することは可能である。中分類 3「About の本」小分類「2 メタファー」に分類できる。例えば、『かつくん どうしてボクだけしかくいの?』（メルベユ, 2001）は、丸い家族の中に一人だけ四角く生まれたかつくんは、友だちから仲間外れにされたが、その後、光る能力があることがわかり、周囲から認められ、自己受容もできたという話である。この絵本には、マイノリティ理解や多文化共生、自己受容のテーマが含まれている。このようなテーマがメタファーとして含まれている絵本は、読書療法としても使用することができ、検索が可能になれば、研究者や学生たちにとっても非常に便利なツールになる。最終的には、このようなメタファーも含めての分類をしたいと考えている。テーマについての分類は今後の課題である。

3 【研究 2】大学生の絵本検索の現状に関する調査

【目的】

本研究の目的は、保育者を目指す本学子ども福祉コースの学生たちが、現在、授業の課題や実習の準備にどのように絵本を探しているのか、現在の検索機能に満足しているのか、どのようなデータベースを必要としているのかを明らかにすることである。アンケート調査で、現状と課題を調べることで、データベース化に必要な情報を入手する。

【方法】

対象者： 城西国際大学福祉総合学部福祉総合学科子ども福祉コース 2 年～4 年生

実施日： 2017 年 3 月 2 日（木）

質問紙： 授業の課題や実習等で使用する絵本の探し方（5 件法）、絵本を選ぶ際の基準（5 件法）、インターネットや図書館等で検索をする際のキーワード（自由記述）、検索結果に対する満足度、今後の検索機能の利用可能性（5 件法）に関して、アンケート用紙を作成した（添付資料 1）。

調査手続き： 調査は、成績配布時に各教員が質問紙を配布し、研究室前に設置したアンケート回収ボックスにて、当日、無記名で回収した。なお、調査は成績評価とは無関係であること、アンケートに回答しないことによる不利益はないことを説明したうえで、自由意思による協力を得た。

【結果】

集計結果は以下の通りである。

1. 調査対象者基本属性

調査対象者：114 名（男性 37 名、女性 76 名、無回答 1 名；平均年齢 20.81 歳、年齢範囲

19-24 歳 ; 2 年生 34 名、3 年生 43 名、4 年生 37 名)

2. 授業の課題や実習等で絵本を選ぶ際の探し方（現状）

学生たちの絵本の検索方法に関する集計は図 4 の通りであった。「図書館で絵本を見て探す」が「あてはまる」と「非常にあてはまる」を合わせ 74.5%であった。続いて、「インターネットで検索する」63.2%、「本屋さんで見て探す」58.8%、「図書館や本屋さんで検索をする」は 38.6%であった。「図書館で相談をする」は僅か 10.5%のみで、「あてはまらない」「全くあてはまらない」の回答が 64.9%となっていた。

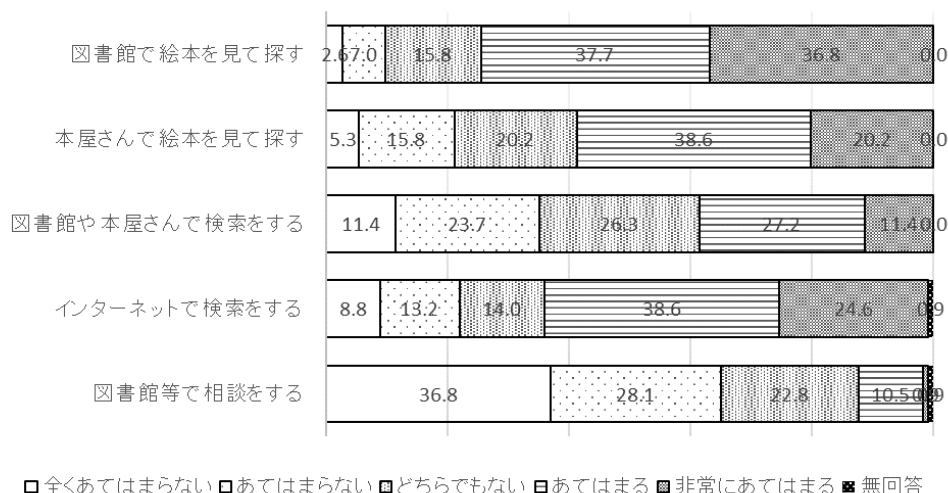
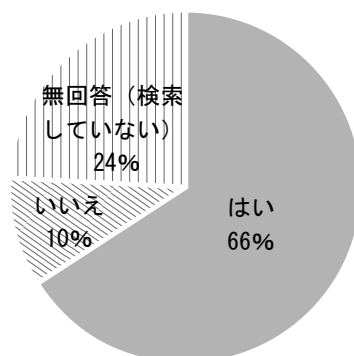


図 4 絵本の検索方法

「現在の検索に満足しているか」という問いには、「はい」が 66%、「いいえ」が 10%、無回答が 24%であった（図 5）。この項目はインターネットや図書館で検索をしたことがあるもののみが回答したため、無回答の 24%は検索をしていないと考えられる。



現在の検索に満足している（n=114）

図 5 現在の検索に対する満足度

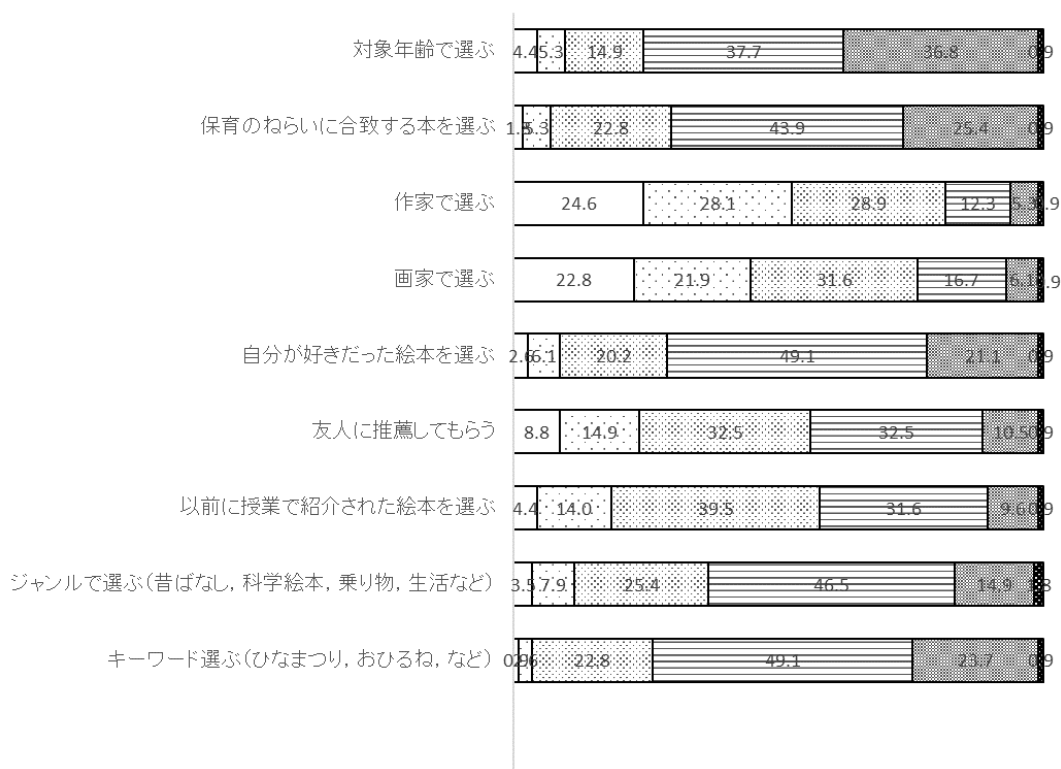
検索キーワードの自由記述に関しては、72 名から回答を得た。そのうち、「内容を検索できるキーワード」といった曖昧な記述 4 件を除いた 163 記述について分類をした(表 2)。「絵本」32 (19.2%)、「子ども・幼児」17 (10.2%)、「年齢」17 (10.2%)、「保育にかかわるキーワード(あいさつ、しつけ、おひるね、ともだち等)」12 (7.2%)、「季節」10 (6.0%)、「実習関連(ねらい、導入など)」7 (4.2%)、「保育」6 (3.6%) などの保育や保育実習にかかわるようなキーワードが多かった。また、「障がい名」4 (2.4%) や「福祉」2 (1.2%) といった福祉関連絵本に関する検索もあった。

表 2 これまで使用したことのある検索キーワードの自由記述

(n=72)			
No.	記述内容	度数	%
1	絵本	32	19.2
2	子ども、幼児	17	10.2
3	年齢、〇歳	17	10.2
4	保育にかかわるキーワード(あいさつ、しつけ、おひるね、ともだち等)	12	7.2
5	季節、季節にかかわるキーワード(雨、かたつむり、〇月)	10	6.0
6	人気、ランキング	8	4.8
7	動物名	7	4.2
8	実習関連(ねらい、導入、教育)	7	4.2
9	保育	6	3.6
10	面白い、楽しい	6	3.6
11	行事(クリスマスなど)	4	2.4
12	書名	4	2.4
13	作者名	4	2.4
14	障がい名(アスペルガー症候群など)	4	2.4
15	学習のテーマ(虐待、赤ちゃんポスト、子どもの権利、戦争)	4	2.4
16	ジャンル(昔ばなし、童話など)	4	2.4
17	身近なもの(バス、たまご等)	3	1.8
18	子どもの発達	3	1.8
19	文化	2	1.2
20	遊び(昔遊び、伝承遊び)	2	1.2
21	絵本の種類(とびだす)	2	1.2
22	福祉	2	1.2
23	心理学	2	1.2
24	障がい児保育	1	0.6
計		163	

次に、授業や実習等で使用する絵本を決定する際の基準に関する結果は、図 6 の通りである。「非常にあてはまる」及び「あてはまる」の合計は、「対象年齢」(74.5%)、「保育のねらいに合致する本」(69.3%)、「自分が好きだった本」(70.2%)、「ジャンル」(62.4%)、「キーワード」(72.8%) であった。「作家」(17.6%) や「画家」(22.8%) で選ぶ割合は少なかった。

選択基準に関する自由記述は、11 名から回答が得られた。それを表にしたものが表 3 である。「季節感」、「絵本の大きさ」に関しては、複数名から回答を得た。「年齢」「ねらい」「読みやすさ」「カラフルさ」「擬音」「言葉の繰り返し」「絵の雰囲気」「楽しさ」「あまり見かけない絵本」については、各 1 名より回答を得た。



□ 全くあてはまらない □ あてはまらない ▨ どちらでもない ▨ あてはまる ■ 非常にあてはまる ■ 無回答

図 6 実習等で使用する絵本の選択基準

表 3 絵本の選択基準に関する自由記述

(n=11)	
No.	記述内容
1	季節感(行事, 生き物を含む)
2	絵本の大きさ
3	年齢
4	ねらい
5	読みやすさ
6	カラフルさ
7	擬音
8	言葉の繰り返し
9	絵の雰囲気
10	楽しさ
11	あまり見かけない絵本

3. 今後の検索機能利用可能性について

絵本の検索機能に関する今後の利用可能性についてまとめたものが図7である。「非常に
 そう思う」及び「そう思う」に回答した割合の合計は、「対象年齢」(78.0%)、「ジャンル
 (昔ばなし、科学絵本など)」(75.4%)、「キーワード(ひなまつり、おひるねなど)」(78.9%)、
 「シリーズもの」(65.0%)「絵本の種類(しかけ絵本、布絵本、点字絵本など)」(61.4%)
 が高かった。一方、「作家」(24.6%)、「画家」(24.5%)、「地域」(30.7%)、「言語」(35.1%)、
 「受賞作品」(31.6%)は利用する可能性は低かった。

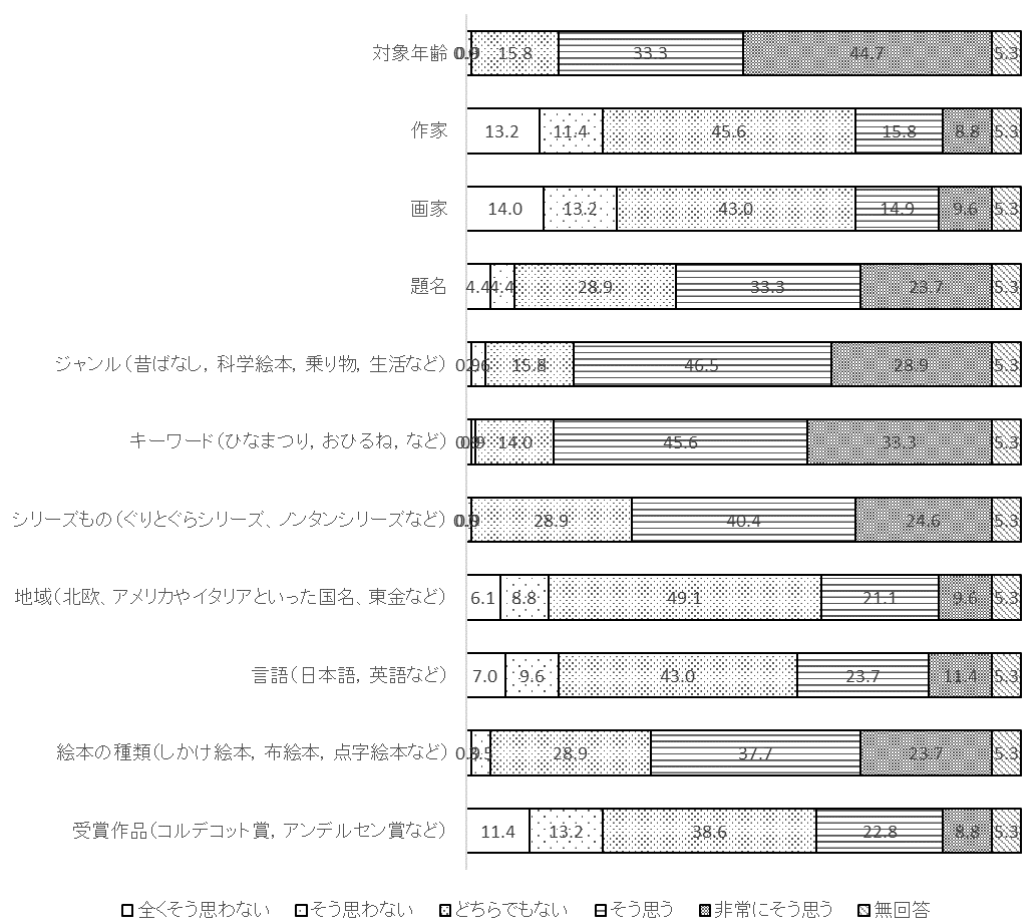


図7 今後利用しようと思う検索機能

4. 考 察

学生たちの絵本の探索方法は、「図書館で絵本を見て探す」(74.5%)が最も多く、「図書
 館や本屋での検索」(38.6%)は少なかった(図4)。保育者を目指す学生たちは、多くの絵
 本を知っておく必要があるため、図書館で実際に絵本を手に取り、自分で読み、選ぶとい
 う方法は非常に望ましい、適切な方法である。しかし、必要な本を素早く探したいときに

は、検索機能が使用できると便利である。「図書館や本屋での検索」の利用者の割合が低いことは、現状では検索機能はかなり限定されたものであるため、必要な情報が得にくいと考えられる。一方、「インターネットで検索をする」(63.2%)は比較的高い数値を示していた(図4)。インターネット検索では、学生たちの必要な情報が入手しやすいと考えられる。例えば、これまで使用したことのある検索キーワードの自由記述には、「実習関連(ねらい、導入、教育)」、「保育」、「面白い、楽しい」、「子どもの発達」などが含まれていた(表2)。これらのキーワードでは図書館のデータベースで該当する絵本を探すことはできないため、これらの検索は、インターネットで行われたと考えられる。また、「障がい名」での検索もあったが(表2)、これも現状の図書館検索では、書名に障がい名が含まれていない限り困難である。「絵本の種類(しかけ絵本、布絵本、点字絵本など)」の検索機能もあれば、利用したいという学生も61.4%存在した(図7)。障がいの種類や絵本の仕様に関する検索への期待も大きいことから、表1に示した分類の素案によって必要な情報を提供することが可能と考えられる。

本学の書籍検索の基本的な項目として、絵本のタイトル、画家、作家、翻訳者、出版年、出版社、言語、大きさが含まれている。今回の調査では、学生たちは「対象年齢」、「ジャンル」、「保育にかかわるキーワード」、「季節」で検索したいという希望をもっていた(表3、図6)。「ジャンル」と「保育にかかわるキーワード」に関しては、今後検討を進めていくが、「対象年齢」と「季節」に関しては、基本情報に加えたい。

まとめ

研究1では文献研究からデータベース化に必要な分類の素案を提示した。素案は、大分類2(マイノリティ、絵本の特徴)、中分類6(マイノリティ：障がい、民族、性的、絵本の特徴：Forの絵本、ユニバーサルデザイン本、Aboutの本)、小分類27である。詳細な検討は今後の課題であるが、福祉関連絵本を分類する際の方向性が示された。

研究2では学生の絵本検索の現状と必要とされる検索機能について検討した。その結果、学生たちは対象年齢や季節での検索を希望しており、これらを基本情報として加える方向で検討を進める。また、学生たちは絵本の種類(布絵本、点字絵本など)や障がい名で検索したいという希望もあった。この点は研究1で示した素案に含まれていることから、素案の詳細な検討を進めることで、学生たちに必要なデータベースの作成が可能になるだろう。

【謝辞】

今回の研究にあたりまして、「絵本データベースの作成～福祉関連絵本を対象として～」というテーマで2016年度の学長所管研究奨励金をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

【参考文献】

- バリアフリー絵本研究会のホームページ <http://www.bf-ehon.net> (2017年3月15日アクセス可能)
- バリアフリー絵本の会 バリアフリー絵本出版リストのページ
<http://www.h4.dion.ne.jp/~ehon/list.html> (2017年3月15日アクセス可能)
- 星川ひろこ 1999 となりのしげちゃん 小学館
- 石井光恵 2013 障がい者と絵本 ベーシック絵本入門 ミネルヴァ書店, 62-65.
- Lima, C.W. 1986 A to Zoo: Subject access to children's picture books 3rd edition. N.Y., R.R.Bowker Company.
- まついりこ 2016 てんじつきさわるえほん じゃあじゃあびりびり 偕成社
- メルベユ 乙武洋匡 (訳) 2001 かつくんどうしてボクだけしかくの 講談社
- 森木朋佳 2015 図書館と連携した絵本データベース作成の試み 鹿児島純心女子短期大学研究紀要 第45号, 87-93.
- Newman L. 2009 Mommy, Mama, and Me Tricycle Press.
- Newman L. 2009 Daddy, Papa, and Me Tricycle Press.
- ヌート P. 山内清子 (訳) 2007 ちびまるのぼうけん 偕成社 (Newth P. 1977 Rulle pa eventyr)
- リチャードソン J. ら 尾辻かな子 (訳) 2008 タンタンタンゴはパパふたり ポット出版 (Richardson J. & Parnell P. 2005 And Tango makes three Simon & Schuster Books for Young Readers)
- 佐々木宏子・高梨一彦・奥能本由佳 1990 絵本のデータベース作成のための基礎的研究 (1) 鳴門教育大学学校教育研究センター紀要 4, 93-99.
- 佐々木宏子・高梨一彦・奥能本由佳 1991 絵本のデータベース作成のための基礎的研究 (II) —子ども発達を理解するための主題— 鳴門教育大学学校教育研究センター紀要 5, 119-124.
- 佐々木宏子 2000 絵本の心理学 子ども心を理解するために 新曜社
- さとうとしなお 2003 オチツケオチツケこうたオチツケ 岩崎書店
- たばたせい いち 1985 さっちゃんのまほうのて 偕成社
- 高橋三郎・大野裕 (監訳) 2014 DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き 医学書院.
- 東京布絵本連絡会の活動のホームページ
http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/book/0802_watanabe_cpb.html (2017年3月15日アクセス可能)
- 徳田克己 1990 視覚障害児・者に対する一般の人の態度を改善するための技法とその評価 視覚障害心理・教育研究, 7 (1・2), 5-21.
- 徳田克己 1991 聴覚障害者に対する態度変容における映像法の効果 筑波大学心身障害学研究, 15 (2), 1-9.
- 徳田克己 1992 盲学校の文化祭見学によって視覚障害者に対する態度がいかに変容するか 弱視教育, 29 (4), 20-24.
- わかやまけん 2009 てんじつきえほん しろくまちゃんのほっとけき こぐま社

アンケート調査協力をお願い

現在、学生や地域の皆さん方が利用しやすい、「絵本のデータベース化」を検討しております。そこで皆さんのご意見をお聞かせいただきたいと存じます。この調査は、皆さん方が絵本を利用するときに、どのように選んでいるか、またどのような検索が必要と考えているかを明らかにすることを目的としています。正しい答えや間違った答えはありませんので、率直にお答えください。

ご協力のほどお願い申し上げます。

絵本データベース化研究グループ

I あなた自身についてお答えください。

- ① 性別： 男 ・ 女
 ② 年齢： _____ 歳
 ③ 学年： 2 年 ・ 3 年 ・ 4 年

II-1 授業の課題や実習等で絵本を選ぶ際、どのような方法で探しますか？ 各項目について、「全くあてはまらない (1)」から「非常にあてはまる (5)」のうち該当する数字に○印をつけてください。

No.	項 目	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
1	図書館で絵本を見て探す	1	2	3	4	5
2	本屋さんで絵本を見て探す	1	2	3	4	5
3	図書館や本屋さんで検索をする	1	2	3	4	5
4	インターネットで検索をする	1	2	3	4	5
5	図書館等で相談をする	1	2	3	4	5

II-2 インターネットや図書館等で検索をする方にお伺いします。どのようなキーワードで検索をしていますか？これまで検索に使用したキーワードを思い出せる限り記入してください。

.....

.....

.....

.....

Ⅱ－3 インターネットや図書館等で検索をしたことがある方にお伺いします。

これまで検索をして満足な結果が得られましたか。

いずれかに○印をつけてください。

はい ・ いいえ

Ⅲ－1 授業の課題や実習等で絵本を選ぶ際、何を基準にして選びますか。各項目について、「全くあてはまらない (1)」から「非常にあてはまる (5)」のうち該当する数字に○印をつけてください。

No.	項 目	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
1	対象年齢で選ぶ	1	2	3	4	5
2	保育のねらいに合致する本を選ぶ	1	2	3	4	5
3	作家で選ぶ	1	2	3	4	5
4	画家で選ぶ	1	2	3	4	5
5	自分が好きだった絵本を選ぶ	1	2	3	4	5
6	友人に推薦してもらう	1	2	3	4	5
7	以前に授業で紹介された絵本を選ぶ	1	2	3	4	5
8	ジャンルで選ぶ（昔ばなし、科学絵本、乗り物、生活など）	1	2	3	4	5
9	キーワード選ぶ（ひなまつり、おひるね、など）	1	2	3	4	5

Ⅲ－2 上記以外に絵本を選ぶ時の基準がありましたら、具体的に記入してください。

.....

.....

.....

IV - 1 次の 1～9 の絵本の検索機能について、今後、どの程度使おうと思いますか？「全くそう思わない (1)」から「非常にそう思う (5)」のうち、あてはまる数字に○印をつけてください。

No.	項 目	全く そう 思わ ない	そ う 思 わ な い	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	非 常 に そ う 思 う
1	対象年齢	1	2	3	4	5
2	作家	1	2	3	4	5
3	画家	1	2	3	4	5
4	題名	1	2	3	4	5
5	ジャンル（昔ばなし、科学絵本、乗り物、生活など）	1	2	3	4	5
6	キーワード（ひなまつり、おひるね、など）	1	2	3	4	5
7	シリーズもの（ぐりとぐらシリーズ、ノントンシリーズなど）	1	2	3	4	5
8	地域（北欧、アメリカやイタリアといった国名、東金など）	1	2	3	4	5
9	言語（日本語、英語など）	1	2	3	4	5
10	絵本の種類（しかけ絵本、布絵本、点字絵本など）	1	2	3	4	5
11	受賞作品（コルデコット賞、アンデルセン賞など）	1	2	3	4	5

IV - 2 検索する場合、どのようなキーワードで検索できると便利だと思いますか。キーワードを自由にあげてください。

.....

.....

.....

.....

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました